

企業人交流で深まる ANAと浦添の絆

日本トップ企業のノウハウで
浦添市の魅力を底上げ

平成30年から市民体育館などの各運動施設に全日本空輸株式会社（ANA）と企業名を冠するネーミングライツ契約を結び、ANAと本市の関わりが始まりました。

世界的な感染拡大が続く令和3年1月、総務省の「地域おこし企業人交流プログラム」により、ANAから本市への社員出向が実現。これまで航空業界を率いた日本トップ企業のノウハウや知見を、市の観光産業の発展や文化スポーツ振興に生かし、市職員の接遇面でのスキルアップなどで市民サービスの向上が期待されています。

着任から約一年半、ANA出向社員のこれまで行った多方面での活躍を紹介します。



文化スポーツ振興課
野村 景子 さん

外資系航空会社での勤務を経てANAに入社。国内線・国際線の機内の責任者の資格を取得しており、社内でも働く外国人客室乗務員の評価も行う。

観光振興課
住吉 真実 さん

新卒でANAに入社。国内線・国際線の機内の責任者の資格を取得しており、長距離線のファーストクラスのサービスも担当。企画部門に所属していた時は飛行機の内装の開発担当も経験。

ANA出向社員のこれまでの活動



1 受け入れ記者会見 2 聖火ランナーと家族の写真を撮る野村さん 3 デンマーク選手団を案内 4 東京ヤクルトスワローズのパブリックビューイングを開催 5 住吉さんが担当する電動キックボード事業をてだ子がPR 6 2階建ての旅客機内を案内 7 フライングホヌと一緒に記念撮影 8 小学生にマナー講座 9 市の新職員研修の講師を担当

市の事業だけでなく 多方面で活躍する2人

出向からこれまでの2人の活動は多岐にわたります。文化スポーツ振興課に配属された野村さんは、開催が延期されていた東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーやデンマーク男子ハンドボールオリンピック選手団の事前合宿の案内役を努め、観光振興課で働く住吉さんは、市内の観光周遊ルートの構築や電動キックボード試乗での誘客事業などを担当し、市の魅力発信に取り組んでいます。

また、市の業務以外にもANAと本市の架け橋として、子ども食堂へ機内提供品の寄付や、初めて沖縄に寄航した大型旅客機へ市内小学生を招待し、普段見ることができない空港の裏側を案内しました。そのほか、市職員や小学生などへ接遇・マナーを教えるなど、本市に幅広く貢献しました。市役所で任期を終えるまで、さまざまなイベントを控える2人のさらなる活躍に目が離せません。



▲SNSでも浦添市を紹介

市の魅力を最大限に生かしたい



仕事柄、全国各地に行くことが多く、地域振興などのお仕事に興味を持っていました。慣れない土地での暮らしも、皆さまに助けられ、楽しくお仕事をさせていただいています。市役所では誘客事業などを担当し、今年もイベントが目白押しですが、残りの期間も浦添市の魅力を最大限に活かせるように努めていきたいと思っています。

ゆかりのある浦添で働けて感謝



祖母が住んでいた浦添の皆さまのために働くことができ、受け入れていただいたことをとても感謝しています。業務では市内小学校へ伺う機会も多く、明るい子どもたちにたくさんの元気をもらっています。残された出向期間も市民の皆さまが健やかに過ごせるよう文化とスポーツの振興のお役に立ちたいと思っています。

観光振興課
上司 玉代 潤一 さん



初めての市役所での業務もどんどん自分で調べて前向きに取り組む姿勢がとても勉強になります。企画書などをすぐに作成できるのはこれまで培ってきた経験なんだと感心しました。

文化スポーツ振興課
同僚 外間 史矢 さん



高いコミュニケーション能力で、いつも課内を明るくしてくれます。日頃から相手の立場を思いやるところはさすがで、市民への接し方など、とても参考になります。私自身まだまだと感じるところもあり、見習いたいです。